

## 794 仙尾部腫瘍の一例

松岡圭子<sup>1)</sup>，中山雅弘<sup>1)</sup>，橘 真紀子<sup>1)</sup>，桑江優子<sup>1)4)</sup>，竹内 真<sup>1)</sup>，  
岡本伸彦<sup>2)</sup>，合田太郎<sup>3)</sup>，窪田昭男<sup>3)</sup>  
(大阪府立母子保健総合医療センター検査科病理<sup>1)</sup>，同遺伝診療科<sup>2)</sup>，同小児外科<sup>3)</sup>  
大阪市立大学医学部付属病院病理部<sup>4)</sup>)

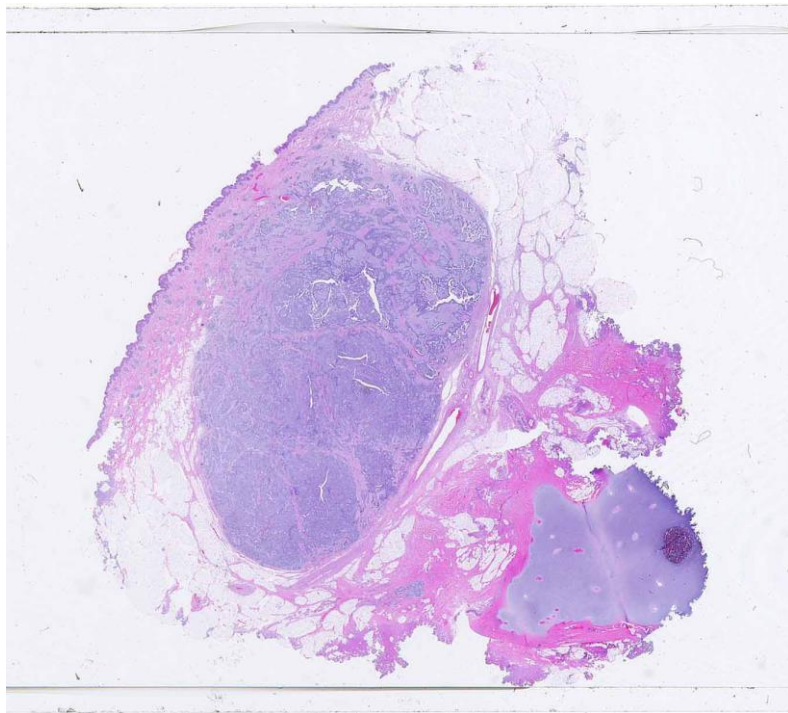
【症例】 0歳男児

【臨床経過】 41週1日、3214g、Apgar 9/9で出生。大泉門開大、前額突出、眼球突出、中央部が扁平などの特異的な顔貌を認め、遺伝子精査にて、Schinzel-Giedion 症候群と診断された。生下時より仙尾部に皮下腫瘍を認めていた。画像では仙尾部の皮下腫瘍は尾骨の背側に接していたが、脊柱管との連続性は明らかでなかった。2ヶ月時に腫瘍の切除が行われた。

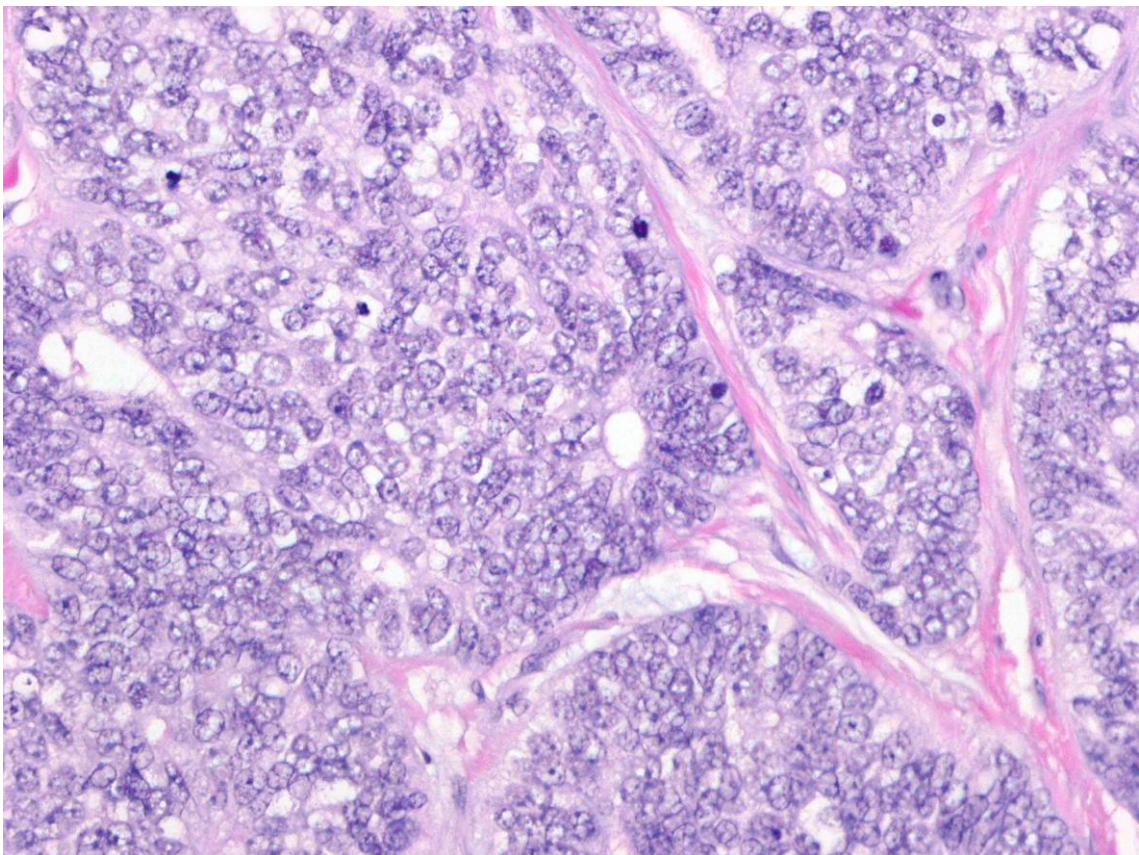
【肉眼像】 皮下の結合組織に連続して約1.5×1cmの灰白色で光沢のある腫瘍を認める。周囲組織との間に被膜は認めないが、ほぼ境界明瞭であった。

【組織像】 組織では小血管を中心として円柱状の腫瘍細胞が偽重層化して乳頭状構造を作っている。血管と腫瘍の間には豊富な粘液を認める。一部では腫瘍細胞は充実性で血管や小空胞を取り囲む rosette を多数認める。核分裂像は非常に多く、免疫染色では GFAP 一部陽性、S-100 陽性、EMA は陰性、Ki-67 陽性細胞は 24%であった。

お詫び：お配りした標本は、腫瘍の末梢に近く、診断時の乳頭状構造がはっきりしないものが多く、申し訳ありません。HPに掲載していただくHE写真もご参照ください。

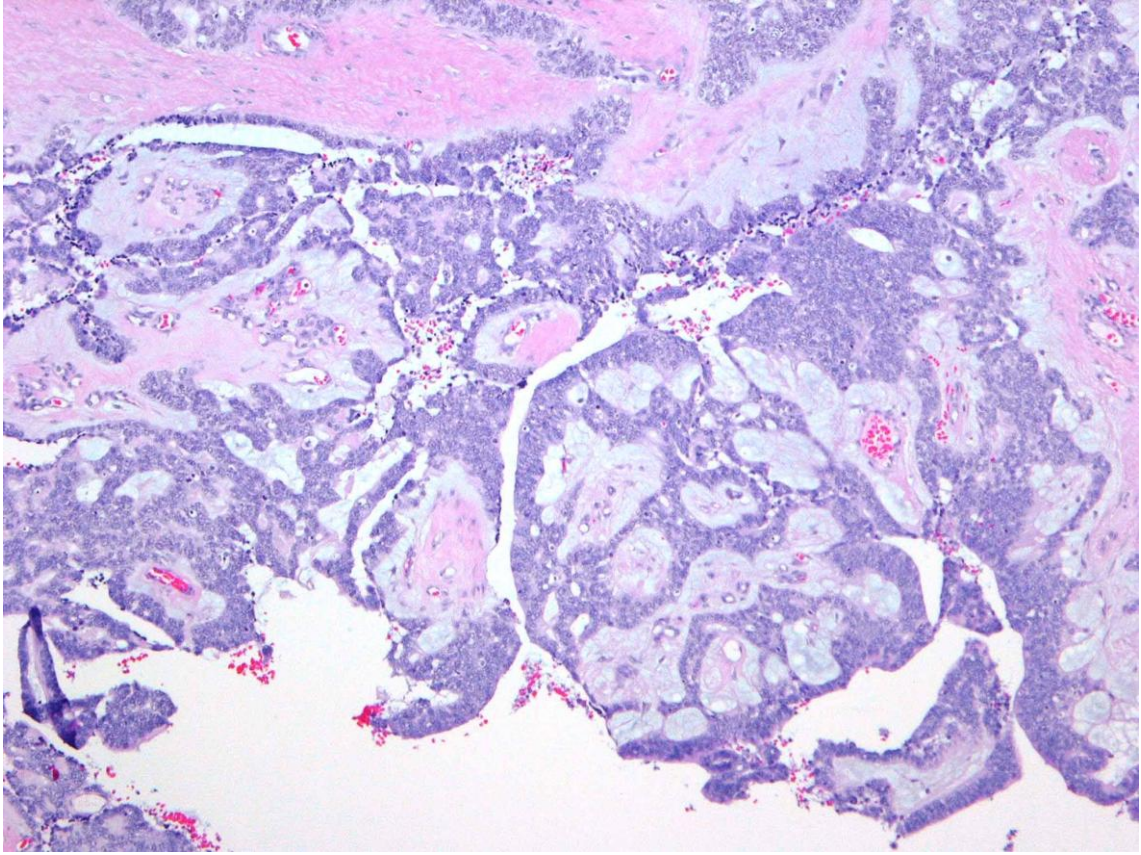


ルーペ像



充実性





乳頭狀構造